

精読法授業の開講の必要性

—教養課程での必修及び選択の授業での精読法授業の試み—

同志社大学言語文化教育研究センター嘱託講師

森 永 弘 司

要 約

近年の大学でのリーディング授業は速読・多読主体の授業が主流になってきた。こうした多読・速読重視の英語教育のために、難度の高い英文に出くわすと、勘やフィーリングに頼って誤読する学生が増えてきている。こうした誤読を矯正するためには、精読を主体とする授業も開講する必要があるといえる。本稿では、3つの大学で実施した精読の授業の結果を報告することで、大学での精読授業の必要性を論じてみた。

1. はじめに

一昨年カジュアル衣料のユニクロを展開するファーストリテイリングは、2010年3月から社内の公用語を英語にする、という方針を発表した。同社の柳井正会長兼社長は毎日新聞の取材で、英語公用語の導入までに「海外で業務ができる最低限の水準として、TOEIC700点以上の取得を求める」¹と語っている。ほぼ同じ頃、インターネット通販大手の楽天も2012年度末までに英語を楽天グループの公用語とする方針を表明した。また同社の三木谷浩史社長は、2012年末までに英語ができない役員は解雇されると明言している²。若い人たちの注目を浴びているこの2つの企業における英語公用語方針は、現在の大学の英語教育の主流となっている実用英語の重視、TOEIC対策を主眼とするカリキュラムを更に推進させる要因となるものであるといえる³。

大学での英語教育においても、口頭でのコミュニケーション・スキルの養成と共にskimmingやscanning等のストラテジーの活用による速読力を身に付けさせることが重視されるようになってきた。しかしながらリーディングの授業で多読・速読が重要視されるようになった結果、近年筆者は授業時に、少し難度の高い英文に出くわすと、勘やフィーリングに頼って誤訳する傾向が英語力下位のみならず中位の学生の間でも強くなってきていることを実感する機会が多くなってきた。全体として森全体を俯瞰する力（速読力）は伸びたといえるが、森を構成する個々の木を観察する力（精読力）は低下してきているという印象が強い。木を見て森を見ないのは愚であるが、森を見

て木を見ないのも賢とはいえない。真の読解力を身に付けるには、速読力と同時に精読力も必要である。精読力の基礎は文法力であるが、精読の授業は中学、高校で文法力を身に付けることができなかった学生が文法力を習得できる機会とも成り得る⁴。

本稿では、3つの大学で半期実施した精読力養成の授業で用いた精読法とその実践方法の紹介、および最後の授業時に実施した精読に関する質問紙調査をもとに学生が精読に対してどの程度の必要性を感じているかを分析し、精読力を身に付けることを主眼とする授業を必修とはいわないまでも、選択科目として設けるべきであることを提言したい。

2. 精読のクラスの受講者

受講者は、筆者が2010年に担当した本学の選択科目のイングリッシュ・ワークショップの3クラスの学生99名（神学、文学、心理学、社会学、商学、経済、法学、文化情報学、理工の各学部の2回生と数名の3、4回生）、同志社女子大学の必修科目の英語購読2クラスの学生88名（こども学科と薬学部の1回生と数名の2回生）、2006年に担当した立命館大学の必修科目のリーディング2クラスの学生88名（法学部の1回生）で、総計275名の学生である。同志社大学および同志社女子大学では英語学力別のクラス編成は実施しておらず、上、中、下レベルの学生が混在している。立命館大学の法学部では当時TOEFLによる英語学力別クラス編成が実施されており、担当したクラスは中位のintermediateレベルに振り分けられた学生で構成されていた。

3. 授業で使用した精読法

授業では精読法とその実践に関する著書を精力的に出版されている薬袋善郎氏が開発された精読法を利用させていただいた⁵。薬袋氏はFrame of Reference（フレイム・オブ・リファレンス、F.o.R.）と呼ばれる読解法を考案した。このF.o.R.は「英語構文を考えるための判断枠組」であり、品詞分解によって英語構文を判断するものである。Frame of Referenceは1つの公準と複数の付帯ルールから構成されている。F.o.R.の公準は、「英文の構造は動詞型が結合したもので、動詞型と動詞型の接点には準動詞か従属節か等位接続詞のどれかが存在する。」というものである。氏はこの公準を次のように説明している⁶。「I make it a rule to take a walk when the weather is good. という英文は次の3つの動詞形が組み合わさって構成されている。make it a

rule, take a walk, is goodの3つで、makeは述語動詞、takeは準動詞、isは従属接続詞に導かれる副詞節の述語動詞として働いている。」付帯ルールの1つに関しては次の説明がおこなわれている。「1つの主語に2つの述語動詞があるときは、原則として間に等位接続詞がなければつなげない。したがって1つの主語に2つの動詞がついて、しかも間に等位接続詞がないときは、1つは述語動詞ではない、つまり準動詞である可能性が強いことになります。」薬袋氏によれば、この公準と付帯ルールにまったく違反せず、規則通りに組み立てられた文は少なく見積もっても全英文の95%に達するとのことである。F.o.R. に基づく精読法で特に重視されるのが動詞の活用（原形、現在形、過去形、過去分詞と-ing形の5活用）と動詞型（完全自動詞、不完全自動詞、完全他動詞、授与動詞、不完全他動詞の所謂5文型）である。薬袋氏は「誰でも知っているのに、誰もが軽視している（というよりも本当の重要性を知らない）この2つの概念の使い方を学ぶと、英文の読み方が劇的に変わります。暗記ではなく、自分の思考力に基づいた読み方ができるようになります。」と述べている。F.o.R.による構文の勉強が実際どのように行なわれるのかを示す類似の例として、第二次大戦中の英国の宰相でノーベル文学賞を授与したウィンストン・チャーチル卿が名門パブリック・スクール‘ハーロウ校’で英語を学んだときの次のようなエピソードを引用している⁷。

「私は、このあまりパツとせぬ地位を約一年ばかりつづけた。しかしこのビリッコ組に長くいたおかげで、最もよくできる生徒よりずっと利益を得たことがある。彼らはラテンとかギリシアとか、その他えらいことを学んだが、私は英語を教えられた。劣等で英語のほかに覚えられぬと考えられたからだ。この劣等組に世間で等閑視されていること、すなわちただの英語を書くことを教える役を託されたのが、ソマヴェル先生であったが、この人はじつにいいひとで、私はこの先生に非常に負うところが多い。彼はいかに英語を教えるかをよく心得ていた。彼ほど教えかたの堂に入った人はないように思う。我々は英語の説明を細かく聞いたばかりでなく、たえず文の解剖を練習した。先生には彼独特の教授法があった。彼はかなり長い文章をとって、それを黒、赤、青、緑のインキでいろいろの構成分子に分ける。主語、動詞、目的語、関係節、条件節、接続節、離接節など！ みなそれぞれの色彩をもち、それぞれの括弧に包まれる。それはまるで、1つの練習問題のようで、毎日のおこなわれた。そして私は四級三、最下級（B）にだれよりも三倍長くいたから、人より三倍よけいにやった。私は完全に習い込んだ。普通の英文なら、その基本構造を骨の髄まで徹底的に覚えた。

これはじつに尊いことだ。それゆえ、後年、美しいラテン語の詩や、簡潔なギリシア語の警句を書いて褒賞をとった同窓が、生計をたてるため、あるいは世間に出んがため、普通の英語を書かねばならなくなったとき、私はこれと伍してなんらの遜色を感じなかった。」

このソマヴェル先生の教授法は「一見すると瑣末なことにこだわり、木を見て森を見ない古くさい教授法のように思えますが、実はこの練習を繰り返すことによって英文を書くときの正しい組み立て方（F.o.R. の場合は英文を読むときの頭の動かし方）が知らず知らずのうちに身につく... 日本でも、戦前の旧制高校の受験勉強では、これに似た練習が盛んに行なわれ、ナンバー・スクール（一高や三高など）や軍学校（陸軍士官学校や海軍兵学校）の合格者の英文読解力が現在の東大合格者のレベルを超えていたことは周知の事実である」と述べている。葉袋式精読法は、現在の英語教育の世界では批判されることとが多い文法訳読式教授法のヴァリエーションの1つといえるが、「中学・高校でオーラル・コミュニケーション重視の英語教育を受けてきた多くの受験生に熱狂的に受け入れられていること」が、なによりもこの精読法の有効性を証明していると語っている。

4. 精読のための50項目の文法ツール

葉袋氏は複雑な英文を正確に読み取るためには1. 品詞の働き、2. 述語動詞と準動詞の識別、3. 5文型の識別、4. 従属節の始まりと終わり及び働きの識別が重要と考え、精読のための以下の50項目の文法ツールの活用と習熟を提唱している⁸。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 文とは？ | 構造上の主語＋述語動詞 |
| 2. 動詞型とは？ | ① ② ③ ④ ⑤ -③ -④ -⑤ |
| 3. 名詞の基本的働きは？ | 主語 動詞の目的語 前置詞の目的語 補語 |
| 4. 名詞の例外的働きは？ | 同格 副詞的目的格 |
| 5. 形容詞の働きは？ | 名詞修飾 補語 |
| 6. 副詞の働きは？ | 動詞修飾 形容詞修飾 他の副詞修飾 文修飾 |
| 7. 主語の2種類は？ | 構造上の主語 意味上の主語 |
| 8. 主語になれる品詞は？ | 名詞のみ |
| 9. 目的語になれる品詞は？ | 名詞のみ |
| 10. 補語になれる品詞は？ | 名詞と形容詞 |



- | | |
|---------------------|---|
| 11. 前置詞の働きは？ | 前置詞+名詞で形容詞句または副詞句となる |
| 12. 述語動詞とは？ | 構造上の主語を伴って文を作る動詞 |
| 13. 準動詞とは？ | 構造上の主語を伴わないので文は作れないがその代わりに名詞・形容詞・副詞いずれかの品詞の働きを兼ねる動詞 |
| 14. 活用とは？ | 原形 現在形 過去形 過去分詞形 -ing形 |
| 15. 原形を用いる5つの場所は？ | 不定詞 toの後 助動詞の後 命令文
使役動詞・知覚動詞の目的格補語 仮定法現在 |
| 16. 必ず述語動詞になる活用は？ | 現在形と過去形 |
| 17. 必ず準動詞になる活用は？ | 裸の過去分詞と裸の-ing |
| 18. been doneは何形か？ | 過去分詞形 |
| 19. being doneは何形か？ | -ing形 |
| 20. 受け身とは？ | 能動態の文の目的語を主語にした文 |
| 21. 受身の動詞型は？ | -③ -④ -⑤ |
| 22. -③の後に何が来るか？ | 目的語も補語も来ない |
| 23. -④の後に何が来るか？ | 目的語が1つ来る |
| 24. -⑤の後に何が来るか？ | 補語が来る |
| 25. beの5つの可能性は？ | ① ② 進行形 受身 完了 助動詞 be to |
| 26. 不定詞の4つの可能性は？ | 助動詞の一部+述語動詞 不定詞名詞用法
不定詞形容詞用法 不定詞副詞用法 |
| 27. -ingの4つの可能性は？ | 進行形 動名詞 現在分詞形容詞用法
分詞構文 |
| 28. 過去分詞の4つの可能性は？ | 受身 完了 過去分詞形容詞用法 分詞構文 |
| 29. 不定詞名詞用法の働きは？ | 主語 動詞の目的語 補語 |
| 30. 不定詞形容詞用法の働きは？ | 名詞修飾 補語 |
| 31. 動名詞の働きは？ | 主語 動詞の目的語 前置詞の目的語 補語 |
| 32. 現在分詞形容詞用法の働きは？ | 名詞修飾 補語 |
| 33. 過去分詞形容詞用法の働きは？ | 名詞修飾 補語 |
| 34. 裸の過去分詞の前の働きは？ | 形容詞または副詞の働き |
| 35. 裸の過去分詞の後ろの働きは？ | ① ② -③ -④ -⑤ |
| 36. 裸の過去分詞の意味は？ | 自動詞なら完了の意味 他動詞なら受身の意味を表す |

37. 分詞構文とは？ 分詞が副詞の働きをする現象
38. 従属節とは？ 1つの文が他の文の中に入って名詞・形容詞・副詞の働きをする現象
39. 従属節の3種類は？ 名詞節 形容詞節 副詞節
40. 大黒柱とは？ 主節の述語動詞
41. 名詞節の働きは？ 主語 動詞の目的語 前置詞の目的語 補語
42. 形容詞節の働きは？ 名詞修飾
43. 関係代名詞の内側の働きは？ 主語 動詞の目的語 前置詞の目的語 補語
44. 関係代名詞が省略されるのはどういう場合か？ 内側で動詞の目的語か前置詞の目的語になる場合
45. whatの内側の働きは？ 主語 動詞の目的語 前置詞の目的語
46. 接続詞の2種類は？ 等位接続詞と従属接続詞
47. 従属接続詞の働きは？ 副詞節を作る ただし、that, if, whetherは名詞節も作る
48. 名詞節を作る言葉は？ 従属接続詞の that, if, whether 疑問詞 関係詞のwhat, 関係詞+ever 先行詞の省略された関係副詞
49. 形容詞節を作る言葉は？ 関係詞（ただし、whatと関係詞+everと先行詞の省略された関係副詞は除く）
50. 副詞節を作る言葉は？ 従属接続詞（that, if, whetherも含む） 関係詞+ever

5. 精読指導の手順

授業でおこなった精読法指導の手順は以下の通りである。1. 述語動詞と準動詞 2. 動詞の活用 3. 動詞型(その1) 4. 従属節(その1) 5. 動詞型(その2) 6. 従属節(その2) 7. 裸の過去分詞。1に関しては、述語動詞と準動詞の識別と準動詞の動詞以外の働き(名詞、形容詞、副詞)の識別に重点をおいて指導する。2は動詞の5つの活用形(原形、現在形、過去形、過去分詞、-ing形)の中で現在形と過去形は必ず述語動詞になり、to+不定詞と現在分詞と過去分詞の裸の形のもの(薬袋氏は、進行形や受動態や完了形のように分詞の前に助動詞のbeやhaveが付くものを着物を着ているもの、動名詞や現在分詞と過去分詞の形容詞用法や分詞構文のように前に助動



詞が付かないものを裸とネーミングされている)は必ず準動詞になることを指導する。3は5文型の識別方法を動詞の後に来る品詞の働きから推察する方法を指導する。4は名詞節、形容詞節、副詞節の三種類の従属節の識別方法を主としてそれぞれの節を作る語を指導することで習得させる。5は受動態の場合、3文型の受動態では、-③、4文型では-④、5文型では-⑤と捉える必要があることを説明する。6は関係詞の働きと関係詞節の十全な理解に必要な関係節の内側と外側の構造について指導する。7は日本人にとって理解の難しい文法事項の1つである過去分詞形容詞用法と分詞構文(過去分詞の副詞用法)という裸の過去分詞に関して解説をおこなう。1から7までの学習項目の解説・説明の後で指導事項の定着を図るために、20~30分程度の時間を与えて練習問題を解かせた。

6. 精読の授業に関するアンケート調査 I

3校の参加者275名を対象に、最後の授業時に実施したアンケートの内容とその結果を紹介する

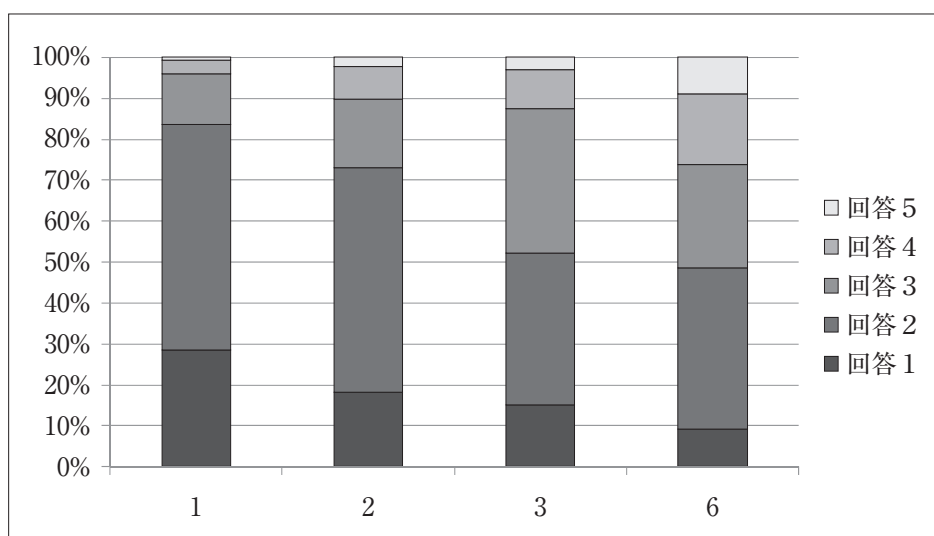
アンケート項目

1. 英文を精読するスキルは重要だと思いますか
 ①強く思う ②少しは思う ③どちらとも言えない ④あまり思わない
 ⑤全く思わない
2. 精読の授業は、大学の英語教育で必要だと思いますか
 ①強く思う ②少しは思う ③どちらとも言えない ④あまり思わない
 ⑤全く思わない
3. 授業で行なった精読法は有効な方法だと思いますか
 ①強く思う ②少しは思う ③どちらとも言えない ④余り思わない
 ⑤全く思わない
4. 3の①、②にマルを付けた人は、この精読法の長所について指摘してください
5. 3の④、⑤にマルを付けた人は、この精読法の短所について指摘してください
6. この精読方式の続きの授業があれば、受講したいと思いますか
 ①強く思う ②少しは思う ③どちらとも言えない ④あまり思わない
 ⑤全く思わない

最初に葉袋式精読法の長所と短所について紹介する。長所に関しては以下の通りである。

1. きっちりと文意が理解できる 42名 2. 難解な文でも分析して文意が理解できる39名 3. 論理的な読解法なので頭にすっと入る 15名 4. 文法と文法の使い方（読解への応用）がよく理解できる 10名 5. 述語動詞と準動詞の識別ができるようになった5名 6. 1つ1つの単語の働きが理解できる 2名 6. 文型が理解できるようになった 2名 6. 節を理解できるようになった 2名 6. 専門書を読むのに役立つ 2名。次に短所について紹介する。1. 理解しにくい 12名 2. 細かすぎる 7名 3. 分析に時間がかかる 5名 4. 実践的ではない 3名 4. 英語のフィーリングに触れることができない 3名 5. 英語を実用的に使う時文型は意味がない 2名 5. 自分には合わない 2名 6. 余り身に付かない 1名 6. 疲れる 1名。

アンケート項目の1、2、3、6の回答の①から⑤までの数値をグラフ化したものを以下に示す。



7. 精読の授業に関するアンケート調査Ⅱ

本学と同志社女子大学の参加者176名に対しては、次の質問項目のアンケートも実施した。この授業を受講することで下記の力で伸びたと思うものにマルをしてください。（複数選択可）①精読力 ②速読力 ③スピーキング力 ④リスニング力 ⑤文法力 ⑥語彙力 ⑦上記以外の力（具体的に書いてください） ⑧いずれの力も伸び



たと思わない

結果は以下の通りである。①110名(59%) ②11名(6%) ③3名(2%) ④3名(2%) ⑤106名(57%) ⑥10名(5%) ⑦2名(1%) ⑧20名(11%) ⑦に関しての2名の記述は以下の通りである。自分が人に教える際の指導力の向上。動詞の使い方。

選択科目を受講した本学の参加者88名に対しては、次の質問項目のアンケートも実施した。受講理由に関して当てはまるものにマルをしてください。(複数選択可) ①精読力を付けたいので ②名文を読みたいので⁹ ③時間割の都合 ④第一希望の抽選にもれたので ⑤単位の取得が容易なので ⑥担当者に以前習ったことがあるので ⑦担当者の評判を聞いて ⑧上記以外の理由。結果は以下の通りである。①36名(36%) ②7名(7%) ③50名(51%) ④13名(13%) ⑤12名(12%) ⑥3名(3%) ⑦9名(9%) ⑧0名(0%)

8. アンケート結果についての考察

1. 3校の参加者275名を対象にしたアンケート調査の項目1の結果、約84%の学生が、必要性の多寡はあるが、精読力を身に付ける必要があることを認識していることが判明した。またアンケート項目2の結果から、約73%の学生が、必要性の多寡はあるが、精読の授業が必要だと考えていることが判明した。従って精読を主体とする授業を必修とはいわないまでも、選択の授業として開講する必要があるといえる。
2. 1と同じ数の参加者を対象にしたアンケート項目3の結果から、葉袋氏の精読法に関しては約52%の学生がその有効性を認めていること、継続してこの精読法を学習したいと考えている学生が48%いることが判明した。葉袋式精読法の有効性を認めた学生の大半が、継続してこのメソッドを学習したいと答えたと推察できる。
3. このメソッドを継続して勉強してみたいと考えている学生が48%にとどまった原因は、十分な時間をかけて指導できなかったことや細かすぎる、時間が掛かりすぎる、といったアンケートの短所の記述からも伺われるようにこのメソッドの訓詁学的な要素が大きいと考えられる。また私自身の教え方が拙かったことも一因であると考えられる。
4. 参加者176名のアンケート調査Ⅱの結果から、精読力が伸びたと回答した学生が59%、文法力が伸びたと回答した学生が57%いたことから、文法力の強化に関し

ても有効性のある方法であるといえよう。

5. 参加者88名のアンケート調査Ⅲの結果から、選択の授業の受講理由に関しては、「時間割の都合上」と「第一希望の抽選にもれたので」を合わせると63%に達し、「精読力を付けたい」の36%の2倍近くを占める。従ってこの選択のクラスに精読力の必要性を認識した生徒が多く集まり、アンケート調査Ⅰの精読の必要性の数値を上げるのに大きく貢献したとみなすことはできないであろう。

9. まとめ

葉袋氏は主著『英語リーディング教本』の中で、15年間の高校・予備校・塾・家庭教師の経験から、「品詞分解」にもとづく自己の精読法に対する生徒の反応に関して、次のような興味深い観察を述べている¹⁰。 1. 少しでも魅力を感じる人 10人中4人くらい 2. そのうち特に強烈に惹きつけられる人 4人中2人くらい（この2人は本人も信じられないようなスピードで英語が上達する） 3. 少しも心が動かない人 10人中4人くらい 4. 強い反感を持つ人 10人中2人くらい。葉袋氏の言葉に従えば、葉袋式精読法は両刃の剣といえよう。強く批判する学習者が2割程度いる反面で、強烈に引き付けられる人も2割程度いる。しかしながら魅惑された2割の学習者が急速に読解力を伸ばしていくという事実が示しているように、熱心に勉強する者には非常に益する所の多い読解法といえる。

もちろん精読法には多種多様なものがあり、葉袋式精読法より優れた精読法があるかも知れない。しかしながら今回の精読法の授業の実践のアンケート調査が示しているように、約84%の学生が精読力を身に付ける必要性を認識しておりまた約73%の学生が精読の授業の必要性を感じている。従って、精読の方法論に関しては教員の間で見解が分かれるにしても、大学の英語教育において精読の授業を必修とは言わないまでも、選択の授業として開講する必要があると結論付けられる¹¹。

付 記

本稿は、全国英語教育学会第32回全国大会での口頭発表「葉袋方式による精読授業の試み」（高知大学、2006年8月）および第16回日英・英語教育学会研究大会での口頭発表「大学の英語教育における精読力養成の必要性：教養課程での必修及び選択の授業での葉袋式精読法教授の試み」（京都ノートルダム女子大学、2010年9月）にお



ける発表原稿をもとに加筆したものである。

引用文献

1. 井出晋平. 「ユニクロ英語公用化」『毎日新聞』2010年6月24日東京朝刊
2. 「楽天 三木谷社長インタビュー」『東洋経済』2010年6月16日
3. 鳥飼久美子. (2010). 『「英語公用語」は何が問題か』東京: 角川書店、11-12.

本書はビジネスと英語の関係を様々なデータを基に論じたバランスの取れた良書である。氏は本書の中で「ビジネスの世界が(英語に関して)厳しい要求を突きつけるようになったから、これからの大学生たちは必死に英語を学んで皆がバイリンガルになるかといえ、恐らくそうはならない。小学校から英語活動を体験し、中学入学時には英語嫌いが増えている現状に鑑みると、「英語だけは得意」グループと、「英語は大嫌い」グループの格差が広がる予感がする」と述べられている。

4. 文法力は読解力の基礎のみならず、他の英語3技能の根幹をなすものであるが、口頭スキル重視の英語教育にシフトして以降、中学・高校では文法学習が重視されなくなってきたのは問題である。筆者の文法力テスト(大場標準英文法テスト第7版)と発表語彙力テスト(Productive Levels Test)、受容語彙力テスト(Vocabulary Levels Test)、英語総合力テスト(C-test)、読解力テストおよび聴解力テストとの相関を調べた研究では、発表語彙力との間に強い相関性($r = .72$)が、また受容語彙力、英語総合力および読解力との間にも中程度の相関性($r = .59, .57, .66$)が検出された。従って、教育現場でももう少し文法習得に力点を置いた指導がなされるべきであると考えられる。詳しくは、「文法指導の重要性—Vocabulary Levels Test, Productive Levels Test, C-test, 読解力テストおよび聴解力テストとの相関性の観点からの考察—」(全国英語教育学会第36回全国大会)を参照されたい。
5. 薬袋善郎氏は駿台予備校、代々木ゼミナール等で教鞭を執っておられたが、現在は著述に専念しておられる。精読に関する著書を多く出版されており、入門編として『英語ベーシック教本』、中級編として『英語リーディング教本』、『英語リーディングの秘密』、中上級編として『英語リーディングの真実』、『思考力をみがく英文精読講義』、『TIMEをよむための10のステップ』、上級編として『英語リーディングの探究』(以上、全て研究社)を刊行されている。F. o. Rおよび薬袋式精読法に関しては、次の薬袋氏のホームページも参照されたい。<http://www.minai-yoshiro.com/> 薬袋式精読法に関しては、「薬袋方式による精読授業の試み」(第32回全国英語教育学会)および「薬袋メソッドに基づく精読法」

- (立命館大学英語教育公開講座)でも紹介をおこなった。
6. 括弧内の引用は、上掲のホームページからのものである。
 7. W・チャーチル著、中村祐吉訳。(1965).『わが半生』東京:角川書店、27.
 8. 葉袋善郎。(2000).『英語リーディング教本』東京:研究社、289-291.
 9. 同志社大学の選択科目のイングリッシュ・ワークショップでは、春学期に葉袋式精読法の授業をおこない、秋学期には『名文で養う英語精読力』(企画・編集協力 森永弘司、編著 葉袋善郎)を使用して授業をおこなったので、「名文を読みたいので」という項目が入ることになった。このテキストに関しては、「葉袋式準拠枠を活用した英語精読用大学テキストの開発」(第38回日本英語教育学会年次大会)、「精読と文学作品を大学英語教育に甦らせる試み」(第48回JACET全国大会)を参照されたい。
 10. 葉袋善郎。(2000).『英語リーディング教本』東京:研究社、293.
 11. 菅原(2011)はコミュニケーション英語に対する疑義と文法・訳読式の授業の重要性を詳述した『英語と日本語のあいだ』を次のような提言で結んでいる。「日常生活が英語でいとなまれる場に身を置くなればともかく、日本で英語という外国語を身につけてゆくには、日本にいながら効果をあげる学習方法を第一に考えなくてはならない。それは、まずきちんと文法を学び、読む力を蓄え、聞く力を養うことである。学校の教室では、生徒たちが独力では学びにくいと感じるものを、優先して教えるべきである。それがまさに「文法・訳読」に他ならない... 文法がある程度理解できたと思ったら、辞書を引きながら、さまざまな英語を読んでゆくことが求められる。日本で生活しながら英語を勉強してゆくにあたり、読む力は、英語学習のもっとも重要な回路になる。日本人英語学習が英語力を伸ばしてゆくためには、まず読む力をつけること。そのことを、あらためて認識する必要があるはずである」(225)。氏の考える「文法・訳読」の詳細に関しては、本書の第三章「読む力を鍛える」および第四章「英語を日本語に訳すこと」を参照されたい。

参考文献

- 井出晋平。「ユニクロ英語公用化」『毎日新聞』2010年6月24日東京朝刊
- 大場昌也(2008)『英語学習のDO'S, DON'T'S & MAYBE'S』金沢:時鐘舎
- 菅原克也(2011)『英語と日本語のあいだ』東京:講談社
- 鳥飼久美子(2010)『「英語公用語」は何が問題か』東京:角川書店
- 瀧本孝雄・北澤浩二・石井隆之(1994)「外国語学習能力の構造とその心理的規定要因について(1)」『獨協大学外国語教育研究』, 第13号, 71-118.



- 葉袋善郎 (1994)『英語構文のエッセンス Stage-1』東京:メープル・ファーム出版部
- 葉袋善郎 (1996)『英語リーディングの秘密』東京:研究社
- 葉袋善郎 (1997)『英語リーディングの真実』東京:研究社
- 葉袋善郎 (1999)『TIMEをよむための10のステップ』東京:研究社
- 葉袋善郎 (2000)『英語リーディング教本』東京:研究社
- 葉袋善郎 (2002)『思考力をみがく英文精読講義』東京:研究社
- 葉袋善郎 (2006)『英語ベーシック教本』東京:研究社
- 葉袋善郎 (2010)『英語リーディングの探究』東京:研究社
- 葉袋善郎編著、森永弘司企画・編集協力(2010)『名文で養う英語精読力』東京:研究社
- 森永弘司 (2006)「葉袋方式による精読授業の試み」全国英語教育学会第32回全国大会.
- 森永弘司 (2008a)「葉袋式準拠枠を活用した英語精読用大学テキストの開発」第38回日本英語教育学会年次大会
- 森永弘司 (2008b)「葉袋メソッドに基づく精読法」立命館大学英語教育公開講座
- 森永弘司 (2010a)「文学作品を用いた精読力養成の試み」JACET関西支部文学教育研究会 4月例会
- 森永弘司 (2010b)「大学英語教育に精読と文学教材を甦らせるため試み」日英言語文化学会 第6回年次大会
- 森永弘司 (2010c)「精読と文学作品を大学英語教育に甦らせる試み」(研究社の賛助会員発表)第48回JACET全国大会
- 森永弘司・竹村理世 (2010d)「文法指導の重要性—Vocabulary Levels Test, Productive Levels Test, C-test, 読解力テストおよび聴解力テストとの相関性の観点からの考察—」全国英語教育学会第36回全国大会
- W・チャーチル著、中村祐吉訳. (1965).『わが半生』東京:角川書店
- 「楽天 三木谷社長インタビュー」『東洋経済』2010年6月16日
- Klein-Braley C. (1997). C-Tests in the context of reduced redundancy testing: An appraisal. *Language Testing*, 14, 47-84.
- Klein-Braley, C. & Raatz, U. (1984). A survey of research on the C-test. *Language Testing*, 1(2), 134-146.
- Laufer, B., & Nation, P. (1999). A vocabulary size test of controlled productive ability. *Language Testing*, 16, 36-55.
- Morinaga, K. (2009). Reliability of C-Test as a Device Measuring Reading and Listening Comprehension Abilities. JACET 48th Annual Convention Proceedings. 199-200.



Schmitt, N., Schmitt, D. & Clapham, C. (2001). Developing and exploring the behaviour of two new versions of the *Vocabulary Levels Test*. *Language Testing*, 18, 55-88.